宍粟郷土会報
No. 30
43. 4. 10
兵庫県宍粟郡
山崎町
教育委員会内
宍粟郷土研究会
電話750番

千七百年前の播磨の國

杉山よしあき

一 ヤマタイ国

千七百年前の播磨の国について、できるだけ平易に述べてみようと思います。千七百年ほども昔の日本の国のことになりますと、正確な文献や記録がありませんので、とても知ることはできませんが。幸いにも中国に魏（ギ）の歴史を記した『魏志』（ギシ）という書物があります。この書物を編集したのは、中国の晋の陳寿（二九七年に六十五才でなくなった）という人であります。この『魏志』の中の「東夷伝」の中の、日本について記した「倭人伝」（ワジンデン）の条を読みますと、千七百年ほど以前の日本のことが大体窺えるのであります。そのころの中国人は、この日本のことを「倭国」（ワコク）と呼び、日本人のことを「倭人」（ワジン）と呼んでいました。そして日本のことを「邪馬台国」（ヤマタイコク）と呼んでいました。この「邪馬台国」には女王の「卑弥呼」（ヒミコ）がいて、二十一ヵ国を統治していて、七百余万里ばかりの、かなり発達した大きな国でありました。

「倭人伝」の重要なところを、一部分だけ現代語に訳してみますと、

「倭人の国は、朝鮮の帯方郡の東南、大海のなかにある——（筆者略）——邪馬台国（ヤマタイコク）にいたる。女王の都（ミヤコ）するところである——つぎに不呼国（ブココク）がある——つぎに姐奴国（タツヌコク）がある——つぎに巴利国（ハリコク）がある——その国はもと、また男子をもつて王としていたが、住すること七・八十年。倭国は乱れ、あい攻伐して年を経ている。と

目次

千七百年前の播磨の国……杉山よしあき 1
歌と句の人 妹尾正孝……安井寅一 8
風月集と素練(三)……多淵健次 9
千種のたたら跡発掘……11
総会報告……11
雑報……12

もに一女子をたてて王となす。名づけて卑弥呼（ヒミコ）という。

卑弥呼は死んだ。大きな塚をつくつた。径（サシワタシ）は百余歩。徇葬者の奴婢は百余人であつた」

等と、二十一カ国におよぶ倭人（ワジン・日本人）の国の位置や、その国の戸数や、日本の国家の状態、社界の状態、経済生活、風俗、司法、産物などを、およそ二千字にわたつて漢文で、くわしく述べてあります。

二　ヤマタイ国はどこか

それでは、この「邪馬台国」（ヤマタイコク）は、今の日本の中のどこにあつたのでしようか。この所在地については「邪馬台国所在論」と言つて、古来、九州説と、近畿大和説の二つがありまして、今なお学界には決定した説がないのであります。

◎　九州説を主張する人たち

「邪馬台国」が九州にあつたと推定する学者は、①本居宣長、②鶴峯戊申、③藤井貞幹、④菅政友、⑤吉田東伍、⑥藤井甚太郎、⑦久米邦武、⑧太田亮、⑨白鳥庫吉、⑩那珂通世、⑪星野恒、⑫喜田貞吉、⑬津田左右吉、⑭橋本増吉、⑮斉藤忠、⑯富来隆、⑰坂本太郎、⑱榎一雄、⑲藤間生大等の人々であります。

◎　近畿大和説を主張する人たち

「邪馬台国」は、近畿地方の奈良の大和にあつたと推考する学者は、①北畠親房、②三宅米吉、③内藤虎次郎、④高橋健自、⑤梅原末治、⑥山田孝雄、⑦和辻哲郎、⑧肥後和男、⑨笠井新也、⑩中山太郎、⑪中山平次郎、⑫志田不動磨、⑬大森志郎、⑭桃裕行、⑮田名網宏、⑯和歌森太郎、⑰上田正昭、⑱小林行雄等の人々であります。

三　武庫国（不呼国）

さて、本論に入ることにします。筆者は、近畿に「ヤマタイ国」があつたという、近畿大和説の立場に立つて、女王の「卑弥呼」（ヒミコ・姫命・尊）が統治していた国が私たちが住んでいる播磨にあつたか、どうか考えてみましよう。

「倭人伝」に、女王の「卑弥呼」が統治した国を挙げている中に

「つぎに不呼国（ブココク）がある」

とあります。これは不呼、務古、武庫は、音がきわめて近似していますから、兵庫県の旧武庫郡地方のことではないかとおもわれます。

◎　銅鐸の出土

①旧武庫郡精道村打出、②同今津村津門北芝、③同住吉村渦森、④同川辺郡多田村満願寺山、⑤川辺郡川西村栄根井坂、⑥川辺郡神津村等から銅鐸が出土していますことによ

つて、弥生式時代ごろに水稲の耕作が行なわれていたことが知られます。銅鐸は、日本にだけ特別にあるもので、お寺の釣鐘を少し押しつぶしたような、扁円筒形の青銅品でその体部の上の方に、弓なりの鈕（チユウ）がついていて上壁には舌（ゼツ）をつり下げる双孔（モロアナ）があいています。高さは四十二センチから、一三五センチまであります。

銅鐸は、近畿を中心にして中国地方、四国の東半、中部地方の西半分に分布しています。銅鐸は、弥生式時代の人々が呼集用の鳴ものとしたり、雨ごいのような農業の神さまをまつるための神聖な宝器として用いられ、部落ごとに一つづつ持つていたものでありましよう。そして銅鐸は、今までに日本中から、三百コ近く出土していますが、古墳や集落のあとからは出て来ないで、多くは部落から離れた山ふところの目だたない場所の斜面にかくして、穴を掘つて埋めてあります。何故、部落にとつて大切な宝器を、山の中に埋没しておいたのでしようか。読者の皆さん、考えてみて下さい。ともかく銅鐸は古墳からは出土しないで、集落ぜんたいの人々の、集団的な祭事に用いられた最高の宝ものでありました。

銅鐸の使用は、二・三世紀の弥生式文化の後期に、もつとも盛大でありましたが、しかも突然に、その伝統を絶つてしまつたのであります。そして、三世紀の末ごろから古墳文化が畿内に発達して、全国に流行しました。この銅鐸文化の消滅と、古墳文化の発生の背後には支配者層の交代があつたのではないでしようか。それで邪馬台国（ヤマタイコク）が、九州から三世紀の後半に近畿の大和へ遷つて大和朝廷を樹立したという「邪馬台国東遷説」が生まれて来ました。これが神武天皇東征の伝説であるという学者もあります。

◎　武庫国（不呼国）の古墳

また、武庫国に豪族の遺した古墳は、①宝塚市長尾山に竪穴式石室のある前方後円の「万頼山古墳」、②同市雲雀ガ丘に、横穴式石室の円墳が約七十六基ある「雲雀ガ丘古墳郡」、③同市安倉鳥島に、竪穴式石室のある円墳の「安倉高塚」、④尼ケ崎市塚口に、前方後円の「池田山古墳」、⑤伊丹市猪名寺に、前方後円の「猪名寺大塚山古墳」⑥芦屋市打出翠ガ丘町に円墳の「阿保親王塚」、⑦同、打出春日町に、円墳の「金津山古墳」、⑧神戸市東灘区本山町

岡本に、竪穴式石室？の前方後円の「ヘボソ塚古墳」、⑨同、住吉町に、前方後円の「呉田求女塚古墳」、⑩同、御影町東明に、前方後円の「処女塚古墳」、⑪同、兵庫区島原に、前方後円の「夢野丸山古墳」、⑫同、会下山町に、竪穴式石室のある円墳の「二本松古墳」、⑬同、須磨区に竪穴式石室の円墳の「得能山古墳」などがあつて、古墳時代の中期には、水稲耕作によつて豪族が住んでいたことが知られます。

◎　武庫国（不呼国）の古鏡

また、鏡は、①旧武庫郡本山村岡本（現神戸市東灘区）マンバイのヘボソ塚古墳から「鳳鏡・神獣鏡」が二面、「獣形鏡」等を出土しており、②同、住吉村住吉（現神戸市）の求女塚古墳から「神獣鏡」三面、③同、打出村（現神戸市）の阿保親王塚古墳から「神獣鏡」、④同、六甲村の十善寺の境内からは「変形文鏡」「獣形鏡」、⑤川辺郡立花村川口の池田山古墳から「画像鏡」「内行花文鏡」「神獣鏡」を出土しています。なお『日本書紀』の「神功紀」摂政元年の条に、「務古水門」の名があることなどによつて、古墳時代の中期ごろには、有力な土豪がいたことが知られるのであります。

四　竜野国（姐奴国）

「倭人伝」に、「つぎに姐奴国（ダツヌコク）がある」とありますのは、「姐」の字は「妲」の誤りで「ダツ」でありましよう。「姐奴国」は、今の播州の「竜野」（古字立野）と音が全く一致しますから、竜野を中心とした地方でありましよう。『大日本史』の「国郡播磨国揖保郡立野」の条に

「伊和大神子石竜比古与其妹石竜比売殖田争水河水為堀故名有立野。野見宿禰葬於此、運石立墓因名」

とありまして、勿論、荒唐ではあるが「立野」の名は早くからあつたものでしよう。千種川、揖保川、市川が並行して南へ流れていて、この流域の緩傾斜地に棚田式水田が造成され、そこに水稲耕作の集落が発達して、豪族が発生したものでありましよう。

◎　揖保川について

「揖保川」と言う川の名のおこりは、『播磨国風土記』によりますと、むかし昔のこと、播磨の神さまである「伊和の大神」と、朝鮮から渡つて来たことになつている但馬系の「天の日矛の命」（アメノヒボコノミコト）という神さまとが土地の占拠をめぐつて、「粒の丘」（イイボノオカ）で、話し合いをしました。それで「粒の丘」（イイボノオカ）のほとりを流れている川を、後に「揖保の川」と呼ぶようになつたのであります。この「イイボノオカ」は、竜野市揖保町揖保上の北方にある標高七十メートルの小さい丘であります。

◎　竜野国（姐奴国）の銅鐸

銅鐸は、①作用郡三日月村下本郷、②飾磨郡鹿谷村神種西山、③宍粟郡河東村須賀沢、④宍粟郡神戸村閏賀、⑤宍粟郡菅野村青木から出土していますから、早くから水稲耕作が行なわれていたことが知られます。

◎　竜野国（姐奴国）の古墳

竜野国地方の古墳は、①竜野市揖西町竜子に、竪穴式石室の前方後円の「三ツ塚一号古墳」、②同、円墳の「三ツ塚二号古墳」、③揖保郡新宮町吉島に、竪穴式石室のある前方後円の「吉島古墳」、④同、太子町松田に、竪穴、円墳の「松田山古墳」、⑤同、揖保川町養久に、前方後円墳の「養久山一号古墳」、⑥同、御津町黒崎に、竪穴前方後円の「興塚古墳」、⑦同、「綾部山二号古墳」（前方後円）⑧竜野市竜野日山に、横穴式前方後円の「西宮山古墳」、⑨揖保郡揖保川町御津町に、円墳七十基、前方後円墳一、前方後方墳二の「権現山古墳群」、⑩姫路市に、横穴式円墳の「飾東一号墳」、⑪同、長持形石棺の「檀場山古墳」⑫同、長持形石棺の「山の越古墳」、⑬同、木棺・円墳の「人見塚古墳」、⑭同、木棺、円墳の「打越山古墳」等があります。

◎　竜野国（姐奴国）から出土した鏡

鏡は、①飾磨郡荒川村大字菖編伯母ヶ谷から「変形神獣鏡」、②同、糸引村大字北原、打越山から「獣形鏡」、③同、御国野村大字国分寺小山から「獣帯鏡」、④同、氷上村大字白国、人見塚から「内行花文鏡」、⑤神崎郡香呂村大字香呂柏尾から「素文鏡」と「内行花文鏡」、⑥揖保郡半田村大字本条字蓮部山から「型式不明」の二鏡、⑦同、香島村大字吉島松山から「獣帯鏡」「盤竜鏡」「内行花文鏡」「神獣鏡三面」、⑧宍粟郡神野村五十波から「内行花文鏡」、⑨同、城下村大字野村塚本から「獣形鏡」を出土しています。

以上のように、古墳の分布と古鏡の出土によつて、古墳時代の中期ごろにはこの西播地方は、水稲耕作の農村集落は相当発達していて、近畿大和政権の有力な一環をなしていたと考えられるのであります。水田耕作の部落共同体が発展して、古代の「竜野国」部族国家となつたと推考されます。

鏡は、はじめ弥生式時代に、中国から中国の鏡（漢式鏡）が輸入されていたらしいです。この鏡は村の代表者である

書籍、雑誌、文具
事務用品、紙
美術額縁
とくさや文具
山崎町山田町（総道神社前）でんわ　六七ばん

豪族のその地位の象徴として、代々、世代から世代へと伝えられ、後につぎの古墳時代になつてから、古墳に副葬されて行きました。それで、鏡は、集団の首長の個人的権威をあらわす、その個人的な所有物であつたと考えられるのであります。景初三年十二月（二三九年）に、倭の「邪馬台国」の「女王卑弥呼」が、中国の魏（ギ）から銅鏡百枚を与えられています。その中の一枚が、大阪府泉北郡信太村の「黄金塚古墳」から出土しています。「内区神像・獣形」の文様の、直径二十三センチの鏡で「景初三年陳、作銘詔之保宜孫」の文字が配されています。

五　播磨国（巴利の国）

「倭人伝」（ワジンデン）に「つぎに巴利国あり」と書いてあります。千七百年も昔には、日本にまだ文字がなかつたので、中国人が音を漢字にあてはめて「巴利国」と書いたのですが、「巴利国」は「播磨」の略で、加古川の中流地方のことではないでしょうか。加古川は志染川、美嚢川、東条川、九会川、野間谷川、杉原川等と共に扇状をして南流し、その上中流には多くの丘陵が連亘し、その麓に緩傾斜地や段丘があつて、そこに湧水や河水、または溜池の水を利用して棚田を造成し、早くから水稲耕作による集落が発達したものでありましょう。『姓氏録』の「右京皇別下」に

「佐伯、直、景行天皇、皇子稲背入、命之後世。男御諸別、命稚足彦天皇（諡成務）、御代中分針間、国給」之、仍テ針間分言」

とありまして、事の真否は別としても、地形と水稲耕作の発達過程との関係から考えても、この加古川の中流地方が早く発達したことが容易に認められます。

◎　播磨国（巴利国）の銅鐸

銅鐸は、①加古郡八幡村上西条東沢、②同村、上西条望塚、③同、中西条村から出土していて、早くから水稲耕が行なわれていたことが知られます。

◎　古墳の分布

古墳の分布も、①加東郡社町に、円墳が教五十基ある「三草山古墳」、②同、社町松尾に、前方後円の「宝塚古墳」③小野市敷地町宮林に、竪穴式円墳の「大塚古墳」、④同王子町上野に、竪穴円墳の「王塚古墳」、⑤同、山田に、木棺、円墳十六基の「焼山古墳群」、円墳の「樫山古墳」⑥三木市別所町宗佐に、前方後円の「愛宕山古墳」、⑦加古川市神野町西条に、竪穴式円墳の「神野五十二号墳」、

⑧同、野口町長沙円長寺に、組合せ石棺前方後円の「聖陵山古墳」、⑨加西郡泉町笹倉に、竪穴式円墳の「亀山古墳」⑩同、加西町玉野新家に、長持形石棺、前方後円の「玉塚古墳」、⑪高砂市阿弥陀町豆崎に、竪穴式円墳の「経塚山古墳」、⑫同、北浜町牛谷に、竪穴式円墳の「天神山古墳」などがあります。このように、竪穴式古墳が多いことによつて、古墳時代の中期ごろには、水稲耕作の集落が発達していたことが窺えるのであります。

◎ 漢式鏡の出土

鏡は、①加東郡来住村阿形鎌ケ谷「カメ塚」から「変形鏡二面」、②多可郡黒田庄村大字喜多天神前から「TLV式鏡」、③印南郡志方村西飯坂共有林山字上ノ頂から「六鈴鏡」、④同、北浜町牛谷字天神から「神獣鏡」を出土しています。

六むすび

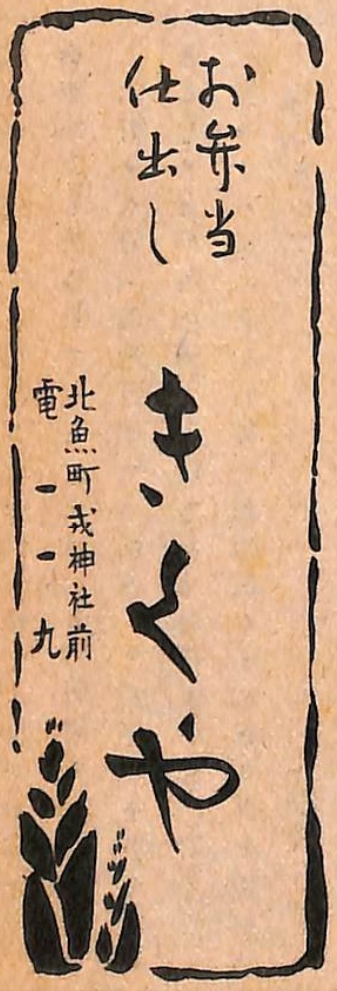
中国の書物『魏志倭人伝』（ギシワジンデン）をみますと、むかし、日本に千七百年ほど以前、「邪馬台国」（ヤマタイコク）という国があつて、女王の「卑弥呼」（ヒミコ）が二十一の国を統治していたと書いてあります。

その「ヤマタイ国」は、九州にあつたか、近畿の大和にあつたかは断定できませんが、ここで筆者は、仮りに「近畿邪馬台国説」に立つて、女王のヒミコが統治していた国の中に、播磨に関係のある国があるのではないか、と考えてみました。そして不呼国は武庫国のこと、姐奴国は竜野国のこと、巴利国は播磨国即ち加古川中流地方のことと推定して述べてきました。

もしも、「倭人伝」に書かれている「姐奴国（ダツヌコク）が「竜野国」のことであるとしますと、現在の揖保郡飾磨郡、姫路市、宍粟郡、佐用郡等は、当然昔はこの「竜野国」に属していて、昔から人口の増加と水田の拡張が相当発達していたことと思われるのであります。以上拙考を述べましたが、筆者は古代史や考古学を専門に研究している者ではございませんので、多々間違つたことを書いている点もあることと思いますが、読者諸賢の中に、日本の古代史に御興味をお持ちのお方の御参考ともなりましたら、望外の幸甚であります。

なお、また「ヤマタイ国」の女王「卑弥呼」（ヒミコ。姫命、尊）とは、一体誰のことでしょうか。皆さん、一つ考えてみて下さい。

〜四三・一・十一〜



歌と句の人 妹尾正孝

安井寅一

妹尾正孝は、明治十二年六月二十四日六十六才で生涯を終つた人。山崎町福原町生まれ、屋号は福嶋屋と称し、穀物問屋で代々町の年寄役を勤め、信望ある人格者であつた。もと新二郎、好古亭と称し、俳句の方では雅号を立志といい宗匠株である。明治六年一月隠居して、晩年は風雅を楽しみ、和歌、俳句などに精進した。長男新次郎氏は長らく山崎町長を勤め、その孫が現在の妹尾聡治氏である。幕末時代は、山崎町に歌人も多く、いわゆる和歌の三秀といわれた稲岡秋平、前野真門、樽井守城らの活躍時代で、正孝も作歌に熱を入れ、日記歌ひかえ帳も残つている。その帳の中から少し歌を拾つてみる。

時計
めがね
ゆびわ

津村時計店
中央通
TEL. 355

秋も早一夜一夜と袖寒きつづれさせてふ虫の声かな

春雨のふる里さして帰るなり梅のうつり香家つとにして

六月十八日（明治六年）八幡宮にて氏子雨を祈る

きこしめせ戸毎に出て雨祈る声も枯行く伊保川の水

初冬十八日（明治七年）家の名を子に譲り世をのがれし心ちして

なす事もなく徒に老にけりむかし語りも世にあわぬまで

明治八年一月十五日知事公思いよらずわが古家に入らせられては手づからさげ給ふ印籠を恵み給ふうれしさ有り難さに

呉竹のうきふし毎に古人の君の恵みの世を思ふかな

五月十日（明治九年）於妙勝寺真門君追善

雪と見しもはかなき夢と咲ちりてあな卯の花のうき世なりけり

病中

うき枕思いかへして寝ては夢起きてはつらきいたつきの床

辞世

世の中のうき旅衣重ねきて死にゆく此身なをいとふかな

播磨地方の有名な俳人、四睡庵素練は、山崎町青蓮寺の僧で、著書も二・三あるが、その素練が十三回忌追悼句集「秋月」が、文化十一年秋出版された。その編輯者四人、孤月、仙爺、玉鉉、立志となつている。選は、素練の後継

者不掃庵素梵で、素練と同じ青蓮寺の僧侶である。これをみても立志が俳句で重きをなしていたことがわかる。ここに妹尾家文書の中に、宗匠に推薦された時の文章が残つているので紹介する。

西播に四大家の高風連綿たるは、四睡、不掃両師の余光なりけらし。さはあれと年うつり世変りて、社友も多くは古人となり今は絶え絶えに両三輩になりぬ。ここに東武の宗匠鵲庵雅聖、遥かにこの由を聞へたまいて此地にこの道の絶えなんことを歎き、我輩の志を失はんことを憐み、道流の一巻にくさくさの書をとり添て、これをおのれに与え先師の法燈を末ながく示し、そのうへ不掃庵の号をさづけ玉ふこと。仰ぎては其懇篤の命を尊み、俯しては身の及ばざるを悔み、あまたゝぞ拝愛して、その報ふべきところを弁ざれば、大海一滴の志をのべ奉るのみ

其ながれしたふ野沢の蛙かな　立志

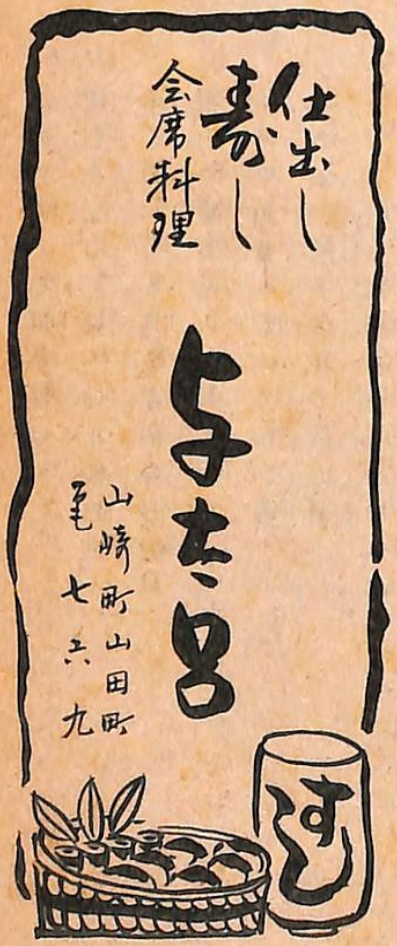
立志の句は、私の眼にふれたもの僅少であるが、数句を載せておく。

下京の灯はもふ細し鉢叩
待宵に乳房はなるる小芋かな
猿曳も猿も野に寝て日永かな
茶手前の裾さばきよき袷かな
菜の花の匂ふて眠し午後一時
菜の花や歩行つかれし旅の昼
ささらぎや梅咲く門もまだ寒し

風月集と素練（三）

多渕健次

月見るや並の岡ハ人たらけ　文由
唐崎や火縄を提て月今宵　橘舎
亭主から座敷を誉て月見哉　汶川
名月や空飛雁の羽つかひ　竜眠
名月や浪の二千里すゝき原　素橋
空いよいよ秋となりけり三日の月　蕗州
名月や貝も真珠孕へし　木蘭
月ひとつ詩歌の数や積れまし　二水
十六夜満れハ欠る世の鏡　叢臥
鳴〳〵の灯かけも白し今日の月　洛霞
名月や遠ふ見せたる淡路嶋　周羽



和洋菓子
ケーキ、カステーラ
神山最上焼本舗
山崎・中央通・電三一六

鳥の眼ハ暗からんけふの月　有隣
森深し月より露のひと雫　此行
名月や船ハ左右へ別れ行　竜山
めい月やとまり鴉の羽に曇り　一蛙
物狂ふ旅面白し盆の月　元山
湖の底も隈なし月今宵　東水
夢覚て窓に淋しき夜半の月　阿秋
閼伽桶に汲て戻るや水の月　玉雅
けふの月芋堀る僧も悟り顔　枝雪
縁端や将棋の駒も月の下　可耕
笠めすハ月も浮気そ盆の影　芦中
秋若しまた細眉に三日の月　倚林
川岸や我より先に月の客　市燕
今朝ハ又ひと詠なり破芭蕉　雪集
寝こゝろや虫遠かず近からす　互考
けふの月羽根うちかハす秋の蝿　菊史

名月や鐘の無常ハ聞はづし　素朝
寒そうな山も見へけり後の月　蛙吹
夜そ更にける花蕎麦や今日の月　魯舟
石山の顔の和らく月見かな　素巌
名月や魚さへ遊ぶ水のいろ　阿仙
きり張ハ障子の花や后の月　千花
よもすから瀬田を廻るやけふの月　浪府
しら菊に音なく積や月の雪　麦里
稲妻の短気見せけり十六夜　井蛙
掃捨の塵おもしろき月夜哉　柳琵
雁かねの行儀崩るや十三夜　竹瓦
秋もはや一葉の寂や二日月　千車
萩寺もたゝ白妙やけふの月　井露
月の雪実海原に氷りけり　穆子
めい月や宿の中行渡し舟　尽水
世を逃て隅なき月を見る夜哉　長羅
月ひとつ持て浮世を遁れたり　双鳥
名月やこゝらに松の植ところ　渓河
めい月や酒屋も昼の顔て居る　桑夫
暑かりしもの皆化て月夜哉　綾花
はつ月や吹なハ水に消ぬへし　柳童
丸かれと人に対して月見哉　波文
月清し砧ハ誰か家なるか　平羌

見ることの腹一はいや浦の月　花員
橋守の顔ハ冷たし后の月　松涛
三日月や冷たい秋を捜し出し　綾羽
名月や動かぬ空に草の浪　巣烏
前栽の松ハ鼻祖よりの記念にして百年
ちかき古株也こよい此松に千年を契りて
猶行末の風雅を仰くにかのいふ鶴に乗て
揚州に遊ふもこのいふ尺の間に目をよろこ
はしむるもともに千歳の栄曜今宵一時の
うちに多々見たりといふへし
松ひと木我に過たる月見かな　武巣丘　花右
鶺鴒のいたらぬ先やほしの恋　名古屋　一斉
七景に皆裾わけやけふの月　素竹
白鷺も雪の中なる月見かな　浪花　其柳
有明の月に浮やみねの寺　鴬里
罪なくて旅のよすかや須磨の月　菅風
箒木もかれて塵なき月夜哉　箕流
影二夜わけて三笠の詠かな　岡子
待宵や主まふけし捨小ふね　九鶴
踊子の楽屋見付し月夜哉　鷺江
囚人の竹輿や陰行盆の月　万化
鹿遊ふ鳥居かもとの月夜哉　五川
蚊帳売た銭て酒のむ月夜哉　壷竜

武蔵野の月に不二見る奢哉　素暁
名月や昼覚へなき峯の松　瞰鳩
薄から月を産出す広野哉　遊糸
こそ〳〵と月に夜田苅ひとり哉　壷仙
名月や灯ハいつ消て浦の宿　逸雲
めい月や萩も音せて野の静　布舟
挑灯ハ飾道具の月夜哉　文河
捨小舟誰か漕出すけふの月　白鳥
月の名を呼とて出る野中かな　蘭香
松原に齢ひ算ん後の月　蝉二
鐘の音の誘ふ葉見せつ小望月　指海
短夜の替る雲井や初月夜　李滴
朝寒し月を添寝の不破の宿　浮山
常も聞鐘やせわしき月今宵　遍仙
外て焚風呂もまたよし初月夜　白橋
月代や障子に画く松の陰　志閣
障子洩影おもしろし月の雪　柳糸
月冷る匙加減よしはつ月夜　王倉
しら〳〵と月の満来る出汐かな　白耳
入と月跡の光りや天か下　青山
名月や出て行先も月の友　杏雨
木々の影二分ハ透けり十三夜　雪笠
花見した山を遠目や月今宵　孤月

総会報告

去る一月十日山崎町長生会館で、本会総会を開催、事業報告、会計事務報告その他事業計画の協議を行ない、役員任期満了による改選をしたところ、左記の者選任されそれぞれ就任された。

会長　井口光司
副会長　岸野市五郎　安井寅一
幹事　入江静夫　志水富次　三木金之助
田中　稔　庄　和夫　宇野正硬
池田平市　志水新次郎　福井詑次
福井政男　岸本　正　安井俊二
田中実太郎　堀口春夫　横井時成
立花関治　北川浅男　西上忠雄
三岡茂一　福井正己　田中義弘

千種のたたら跡発掘

宍粟郡千種町西河内の高保木地区で、たたら跡（昔の製鉄所）の発掘が三月二十二日から約十日間の予定で、本格的に始められた。地元中学、高校生ら五十名の協力をえて和島誠一岡山大教授の指揮で、中村資源科学研究所員、宇野高校教諭、上山千種中教諭らが慎重に発掘を進めている。後日その成果の発表されることを期待するが、もとより千種鉄の本場のことであるから、日本製鉄史にも影響する重要な発見があるのでないかと郡民の期待は大きい。

雑報

◎二月十八日竜野史談会（責任者山本健治氏）一行約五十名は、山崎町および安富町の史蹟名勝を見学に来町、闇斎神社、郷土館、八幡神社、最上山公園等を視察。安富町では、光久寺、千年家など巡覧された。

◎山崎町老人ホームは、かねて山崎町五十波の長水城主宇野氏屋敷あとに建設が決定していたが、三月着工、九月末日完成の予定。工費約二千万円。

◎宍粟郡神社総代会および郡神職会では、勤王志士美玉三平と中島太郎兵衛慰霊祭を明治百年記念事業として挙行、四月七日下村記念館で講演会と共に開催。

◎本会春季見学旅行は、来る五月十二日近江方面探訪予定、詳細は近日発表しますから御支援を願います。

割烹料理
仕出し
三木屋食堂
中央通
TEL. 74